

# 赤羽末吉

## 中国とモンゴルの大地

展示会期 2016年11月9日(水)～2017年1月15日(日)



1. 『スーホの白い馬』(福音館書店)表紙 1967年

「日本の子どもにもあの壮大な風景を見せたい。」

赤羽末吉



内蒙古 アバハ 赤羽末吉撮影 1943年

情熱的な絵本づくりで日本の絵本史に残る傑作を数多く発表し、日本人として初めて国際アンデルセン賞画家賞を受賞した赤羽末吉。本展では、赤羽の幅広い絵本の仕事のなかから、『スーホの白い馬』『ほしになつたりゅうのきば』『あかりの花』など、中国やモンゴルの大地を舞台とした絵本の数々を、多くの資料とともに紹介します。

赤羽は1932年に旧満州(中国東北部)に渡り、以来15年間を彼の地で暮らしました。中国大陸の風土や文化に魅せられて絵筆をとり、次第に画家として高い評価を得るようになります。

50歳で絵本画家として活躍をはじめた赤羽は、戦後再発見した日本の風土の美しさとともに、大陸の風土の壮大なスケールを、絵本を通して子どもたちに見せたいと願うようになります。一冊ごとに物語の視覚的な演出に創意工夫を凝らし、舞台となる風土の研究に取り組んだ赤羽が、中国やモンゴルの風土や文化、人々の生活をどのようにとらえ、絵本に表現したかを探ります。

## 中国大陸に魅せられて

22歳で旧満州に渡った赤羽末吉は、運送業の手伝いから身を起こし、満州電信電話株式会社に勤めるようになります。そのかたわら影絵人形芝居や土俗人形などの中国の伝統文化に魅せられて、研究・紹介に取り組み、一方で絵も描き続けて、満州国国展で特選賞を受賞するなど画壇で活躍するようになりました。



2. 承德 瑠璃塔 1940年頃



満州人形巻物(部分) 1945年

### 赤羽末吉 (1910-1990)

1910年、東京・神田に生まれる。1年ほど日本画を学び、以後独学。1932年旧満州(中国東北部)に渡り、電信電話会社などの仕事のかたわら、満州国国展などに出品。1947年帰国。1948年から52年までGHQの民間情報教育局(CIE)に勤務の後、69年までアメリカ大使館に勤務。1961年、50歳のときに絵本の処女作『かさじぞう』を出版。国際アンデルセン賞画家賞(1980年)をはじめ、国内外の受賞多数。

旧新京(現・長春)の自宅にて  
1940年頃(30歳頃)



公益財団法人いわさきちひろ記念事業団  
ちひろ美術館・東京

<http://www.chihiro.jp/>

TEL.03-3995-0772(業務用)

お問い合わせは、広報担当:北村・中平・武石まで

## 絵本『スーホの白い馬』の誕生

1943年、満洲国政府の委嘱によるチンギスハン廟の壁画制作のため内蒙古（内モンゴル自治区）に取材に出かけた赤羽は、戦後、日本への引き揚げ時に、このときのスケッチや写真を荷物に忍ばせ持ち帰りました。

赤羽はあの壮大な大地を子どもたちに見せたいと、1961年、2冊目の絵本としてモンゴル民話『スーホのしろいうま』を手がけます。さらに1967年には、版型を大きくした48ページの絵本『スーホの白い馬』を発表しました。赤羽の念願をかけたこの絵本は、名作絵本として今も読み継がれています。



内蒙古 モンゴルの青年 1943年



3. 『スーホのしろいうま』 こどものとも67号（福音館書店）表紙 1961年



4. 『スーホの白い馬』（福音館書店）より 1967年

## 中国の民話の絵本

赤羽は日本の民話とともに、『王さまと九人のきょうだい』『チワンのにしき』『ほしになったりゅうのきば』など中国の民話の絵本も数多く手がけています。物語を視覚化するために徹底して資料を調べ、舞台や衣装を考え、演出に創意工夫を凝らしました。1985年に苗族の民話『あかりの花』を描いたときには、現地まで取材に出かけています。



5. 『ほしになったりゅうのきば』（福音館書店）より 1976年



6. 『あかりの花』（福音館書店）より 1985年



7. 『王さまと九人のきょうだい』（岩波書店）より 1969年



## ちひろ・冬のしつらえ

展示会期 2016年11月9日(水)  
～2017年1月15日(日)



8. ストーブとふたりの子ども 1960年代後半



草花の彩りが少なくなる冬、いわさきちひろは、子どもたちの装いに彩りを求め、思い思いの時間を過ごす冬の子どもたちをいきいきと描いています。日々の暮らしを慈しんでいたちひろは、絵のなかに晩秋から冬にかけての澄んだ空気とともに、あたたかな冬支度を細やかに描きました。本展では、ちひろが描いた冬の子どもたちの作品をはじめ、雪深い黒姫山荘での暮らしぶりを思わせる作品や、絵本『ゆきのひのたんじょうび』の原画などを展示します。



9. 暖炉のまゝで猫を抱く少女 1971年

### 秋から冬へ 子どもたちの時間

深まりゆく秋の情趣を感じたり、あたたかな部屋の中かでそれぞれの時間に興じたり、寒さにも負けず元気に外で遊んだり、季節の行事に胸をはずませたり……。晩秋から冬にかけての子どもたちをとらえた作品を展示します。

### 冬のよそおい

四季折々の草花や自然とともに子どもたちを描いたちひろは、草花が少なくなる冬、彩りを子どもたちの装いに求めました。帽子や手袋やマフラーなどあたたかな身支度にポイントとなる色彩を置き、楽しみながら描いていました。



10. 白いマフラーをした緑の帽子の少女 1971年



冬の山荘ぐらし

ちひろは1966年に長野県信濃町の黒姫高原にアトリエを兼ねた山荘を建てます。ちひろは、ここで自然を愛でながらさまざまな作品を描いています。ちひろはこの山荘を冬は「雪亭」と称し、そこで過ごす時間を大切にしていました。



11. 雪の幻想 1971年



12. 赤い毛糸帽の女の子 1972年  
『ゆきのひのたんじょうび』(至光社)より

絵本 『ゆきのひのたんじょうび』

絵本『ゆきのひのたんじょうび』には、雪が降る日に生まれたちひろ自身の幼いころの感性が息づいています。ちひろはこの絵本で、雪が降り、一変した景色を見たときの感動をみずみずしくとらえています。おたんじょうびにもらった赤い帽子と手袋は、少女の心もあたたかく包み込んでいます。



13. かるたとり 1964年

なつかしい  
昭和の冬支度も  
ご紹介します。

同時開催 トットちゃん広場オープン記念

ピエゾグラフィによる『窓ぎわのトットちゃん』展

展示会期 2016年11月9日(水)～2017年1月15日(日)

「君は、本当は、いい子なんだよ」

トットちゃんの一生を決定したのかも知れないくらい、大切な、この言葉を、トットちゃんがトモエにいる間じゅう、小林先生は、いい続けてくれたのだった。

黒柳徹子『窓ぎわのトットちゃん』(講談社)より

『窓ぎわのトットちゃん』は、黒柳徹子(当館館長)の自伝的物語です。“トットちゃん”こと黒柳が通った小学校・トモエ学園は、戦時中でありながらも、子どもの個性を大切に育むユニークな教育を実践した学校です。男の子も女の子も、障害のある子も、「みんないっしょだよ」といい続けた校長先生のもと、トットちゃんや友だちは情操豊かにたくましく育っていきました。

今年7月23日に、安曇野ちひろ美術館に隣接する安曇野ちひろ公園(長野県・松川村営)の一角に、トモエ学園の電車の教室を再現した「トットちゃん広場」がオープンしました。

本展では、「トットちゃん広場」のオープンを記念し、ちひろの絵と黒柳のこぼれが織りなす物語の世界を紹介します。



安曇野ちひろ公園 トットちゃん広場 電車の教室  
詳細情報はこちらをご参照ください。http://www.chihiro.jp/totto/



電車の教室から手を振る黒柳徹子



14. こげ茶色の帽子の少女  
1970年代前半

ピエゾグラフィとは

ちひろ美術館では、現時点でのちひろの作品の色合いや風合いをデジタル情報として保存し、最新技術の「ピエゾグラフィ」という方法によるデジタルアーカイブと「ピエゾグラフィ作品」としての複製に取り組んでいます。耐光性のある微小インクドットによる精巧な画像表現は、繊細な水彩画の再現性を飛躍的に高め、明るい光のもとでの絵の鑑賞を可能にしました。



\* 詳細は、ちひろ美術館ホームページでご案内します。イベント参加費の他、別途入館料が必要です(高校生以下は入館料無料)。 定員、参加費が記載されていないものは、参加自由、無料です。

## 展示 関連イベント

## ●赤羽茂乃講演会「赤羽末吉の見た中国大陸」

戦中から戦後にかけての15年間を旧満州(中国東北部)で暮した赤羽末吉。赤羽茂乃氏が、赤羽の足跡や中国の文化について語ります。

11/26(土) 16:00~18:00 講師:赤羽茂乃(赤羽末吉の三男の妻)  
定員:60名 参加費:700円 \*要申し込み 10/26(水)受付開始

## ●ワークショップ「ハニカムペーパーでつくるクリスマスのオーナメント」

12/3(土) 10:30~15:30(所要時間30分) 講師:宮崎民子(グラフィック・デザイナー)  
対象:5歳~大人 ※ハサミを使います。  
定員:40名(先着順) 参加費:500円 \*当日申し込み 受付時間10:00~15:00

## ●「海のもの」と山のもののお弁当ごっこ

『窓ぎわのトットちゃん』にならって、海のものとお山のものをバランスよく組み合わせ、お弁当をつくってみましょう。

12/23(金・祝)~25(日) 11:30~12:00 / 14:30~15:00

2017. 1/4(水)~9(月・祝) 11:30~12:00

対象:小学生以下 定員:当日先着5名



※食材は木製です。  
食べられません。

## 参加自由・無料のイベント

## ●松本猛ギャラリートーク

12/4(日) 14:00~

講師:松本猛(絵本学会会長・ちひろ美術館常任顧問)

## ●ギャラリートーク

毎月第1・3土曜日 14:00~

## ●えほんのじかん

協力:ねりま子どもと本ネットワーク  
毎月第2・4土曜日 11:00~

## ●無料感謝デー

12/11(日) 10:00~17:00(入館は16:30まで)

## ●成人の日特典、新成人の方は入館無料&amp;プレゼント

2017. 1/7(土)~1/15(日)

※生年月日の分かる証明書を提示ください。

## 文化庁平成28年度 地域の核となる美術館・歴史博物館支援事業

## ●ファーストミュージアムデー 11/13(日)

子どもたちが人生ではじめて訪れる美術館“ファーストミュージアム”として親しんでいただけるよう、美術館の楽しみ方をご紹介します。

## ◎あかちゃん鑑賞会 10:30~12:00

あかちゃんのための鑑賞会を開催します。展示室で鑑賞したあと、鑑賞のヒントなどをお話します。

講師:富田めぐみ(NPO法人あかちゃんからのアートフレンドシップ協会代表)

対象:0・1・2歳と保護者 定員:10組20名 \*要申し込み10/13(木)受付開始

## ◎子育てのひろば 10:00~15:00

親子で楽しく遊んだり、保護者同士で交流したり...「子育てのひろば」が美術館に出張してきます。

対象:乳幼児と保護者 協力:NPO法人手をつなご

## ●わらべうたあそび

11/19(土) 11:00~11:40

講師:服部雅子(西東京市もぐらの会代表、はとさん文庫主宰)

対象:0~2歳までの乳幼児と保護者 定員:15組30名

\*要申し込み 10/19(水)受付開始

●ちひろの水彩技法ワークショップ  
にじみのぼち袋

2017. 1/2(月)・1/3(火) 10:30~

定員:先着70名

\*当日申し込み 受付時間10:00~15:00



## ●「支援会員の日」 11/27(日)

14:00~ギャラリートーク、15:00~報告会

15:30~記念講演 海老名香葉子(作家)「平和への願い」

参加費:支援会員無料、一般1000円(入館料込)

定員:80名 \*要申し込み 11/4(金)受付開始

## ●ドキュメンタリー映画

「いわさきちひろ 27歳の旅立ち」

上映会 12/15(木) 16:00~18:00

定員:60名 \*要申し込み 11/15(火)受付開始

## ●たてもの探検ツアー

12/18(日) 15:00~15:40

定員:20名

\*要申し込み 11/18(金)受付開始

- 展示会期...2016年11月9日(水)~2017年1月15日(日)
- 開館時間...10:00~17:00(入館は閉館の30分前まで)
- 休館日...月曜日(祝休日は開館、翌平日休館) ※年末年始(12/28~1/1)、冬期休館(1/16~2月末)
- 入館料...大人800円/高校生以下無料  
グループ(有料入館者10名以上)、65歳以上の方、学生証をお持ちの方は700円/  
障害者手帳ご提示の方は400円、介添えの方は1名まで無料/視覚障害のある方は無料/年間パスポート2500円
- 交通...◎西武新宿線上井草駅下車徒歩7分  
◎JR中央線荻窪駅より西武バス石神井公園駅行き(荻14)上井草駅入口下車徒歩5分  
◎西武池袋線石神井公園駅より西武バス荻窪駅行き(荻14)上井草駅入口下車徒歩5分  
◎駐車場あり(乗用車3台・身障者用1台)

## &lt;次回展示予定&gt;

2017年3月1日(水)~5月14日(日)

開館40周年記念  
日本・デンマーク外交関係樹立150周年  
ちひろのアンデルセン  
イヴ・スパング・オルセン展

\*展覧会名・会期・内容等は、予告なく変更する場合がございます。

【ハッシュタグ#chihirotをつけて情報をシェアしよう!】  
Instagramやtwitterで #chihirot のハッシュタグをつけて投稿していただいた写真は、公式サイトでご覧いただくことが可能です。(展示室での撮影はご遠慮ください)



公益財団法人いわさきちひろ記念事業団  
ちひろ美術館・東京

<http://www.chihiro.jp/>

お問い合わせは、広報担当:北村・中平・武石まで

〒177-0042 東京都練馬区下石神井4-7-2 テレホンガイド 03-3995-3001 03-3995-0612(代表) FAX 03-3995-0680